

令和2年（2020年）の秋サケの資源状況について

令和2年6月19日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

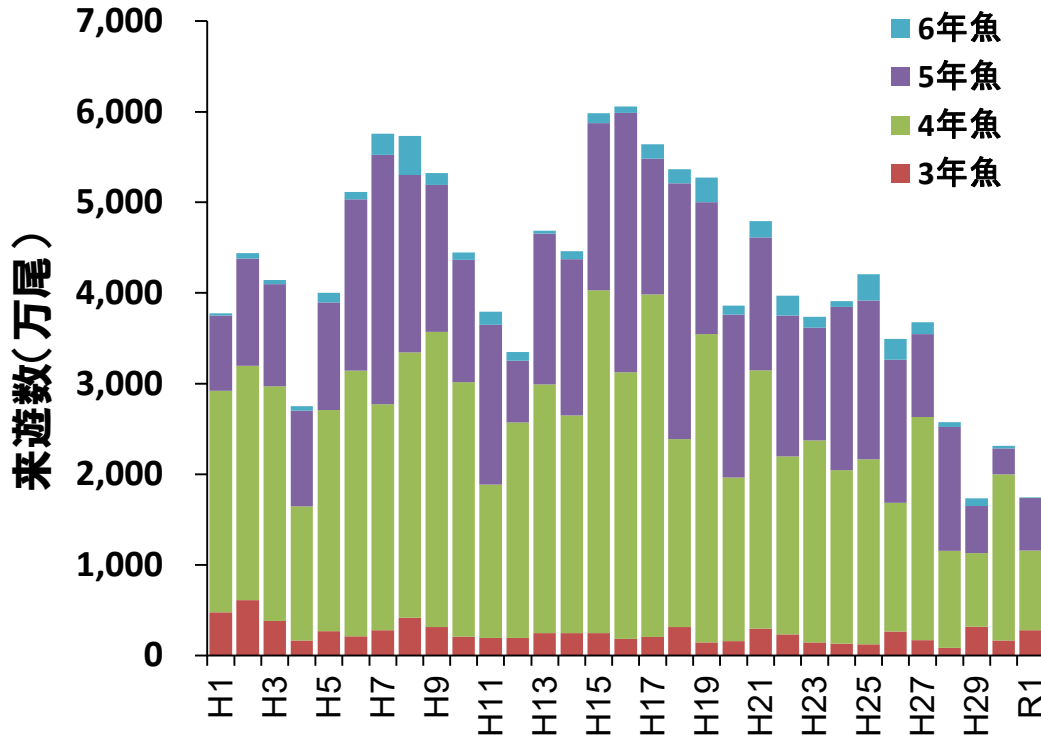


図1 北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

令和元年の北海道への秋サケ来遊の特徴

○令和元年（2019年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は1,756万尾と前年度比で76%と平成以降、最も少なかった平成29年（1,737万尾）に次ぎ少ない数量となりました（図1）。また、予測に対する実績の値は57%となりました。予測を大きく下回った理由は、近年、シブリングの関係（同じ年生まれの3（4）年魚の数に対する4（5）年魚の数の関係）が大きく変化したことによりますが、その原因は明らかになっていません。

○年齢別来遊数について、4年魚（平成27年生）は878万尾で平成以降2番目に少なく、5年魚（平成26年生）は578万尾で平成以降3番目に少ない値でした。一方、3年魚（平成28年生）は280万尾と平成以降で9番目に多い値でした。

○時期別では、前期が908万尾（前年対比104%）、中期が736万尾（前年対比60%）、後期が113万尾（前年対比53%）と、中後期が前年を下回りました。

○令和元年の平均目廻りは3.32kgと昨年の3.04kgから増加し、過去10年の平均値の93%にまで回復しました。

各海区への来遊状況

○昨年の各海区への来遊数は日本海を除き、前年を下回りました（図2）。

○年齢別では来遊の主群である4年魚および5年魚が少なく、各海区、過去10ヶ年では、1番目から3番目に少ない来遊数でした（但し、日本海の4年魚だけは過去10カ年の平均的な来遊数となりました）。3年魚はオホーツク、えりも以西、日本海で過去10カ年において1番目または2番目に多い来遊数となりました。

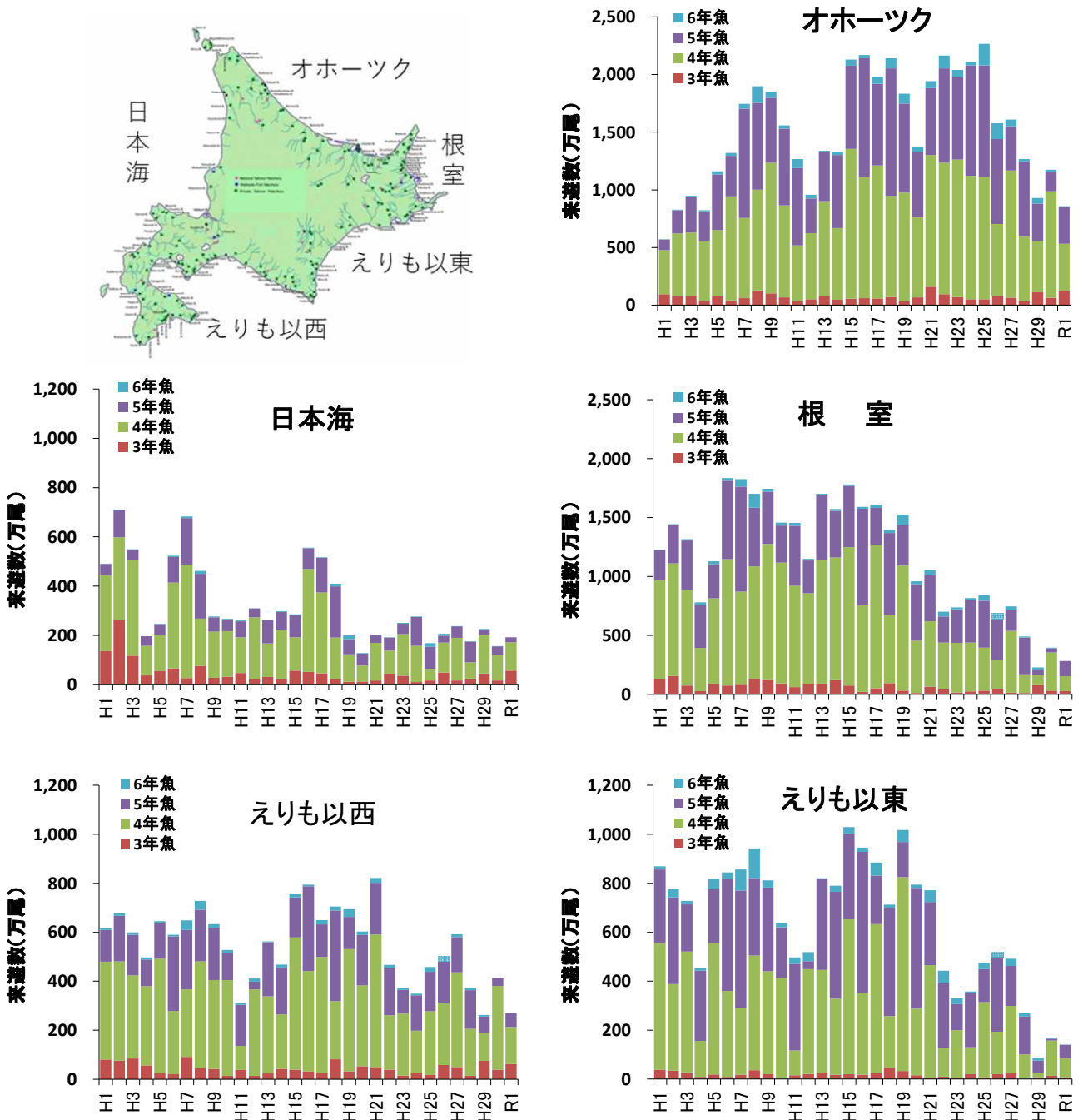


図2 各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(令和2年)の来遊予測

○昨年までと同様にシブリング法を基本に来遊数を予測しました。この手法では、前年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、前年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します(図3)。

○最近、実際の来遊数が予測を下回る場合が多くみられることから、令和2年の予測ではできるだけ最近のデータを使うとともに、過去3年間における予測値からの外れ度合い(下振れの程度)を考慮して予測値を算出しました。

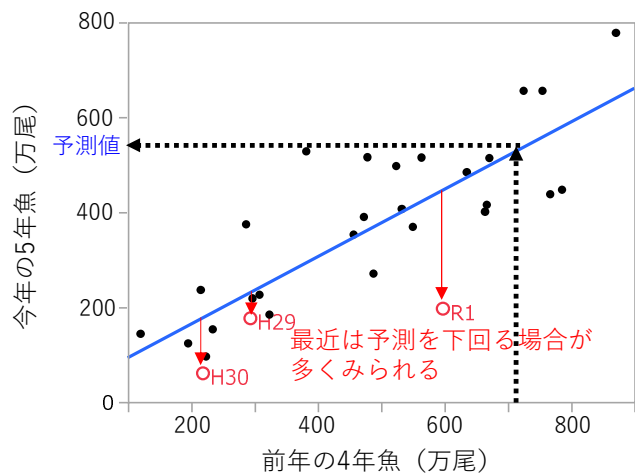


図3 シブリング法(例:A地区)

今年の予測値

令和2年(2020年)の全道への秋サケ来遊数は1,990万3千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のとおりです。

海区	地区	令和2年 予測値(千尾)	令和元年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	5,100	4,514	113.0
	中 部	2,579	2,379	108.4
	西 部	2,193	1,720	127.5
	小 計	9,872	8,614	114.6
根 室	北 部	1,754	2,061	85.1
	南 部	847	782	108.3
	小 計	2,601	2,843	91.5
えりも以東	東 部	407	487	83.5
	西 部	845	923	91.6
	小 計	1,252	1,410	88.8
えりも以西	日 高	1,519	1,277	119.0
	胆 振	744	699	106.5
	噴火湾	648	520	124.7
	道 南	437	241	180.9
	小 計	3,348	2,737	122.3
日 本 海	北 部	886	719	123.4
	中 部	995	761	130.7
	南 部	950	478	198.8
	小 計	2,831	1,957	144.6
北 海 道 総 計		19,903	17,560	113.3